

高温による開花期変動が小さい8月咲き小ギク新品種‘春日W3’の育成

～需要期の安定出荷に向けて～

8月咲き小ギクの新品種‘春日W3’を育成しました（図1）。本品種は小ギクの需要期である盆時期に安定して開花する特性を有しています。

1. 背景と目的

本県の小ギクは生産量全国第2位の主要品目です。8月の盆時期には、仏花としての需要が高いため、市場からは安定出荷が求められています。しかし、近年の高温傾向により開花期が前後に変動し、盆時期に計画的に出荷することが困難になっています。そこで、高温の年でも開花時期が変動しにくい8月盆出荷用小ギク品種の育成に取り組みました。

2. 研究成果の概要

露地条件における開花期の年次変動が小さく、かつ無加温ハウスにおける高温条件と露地条件での栽培を比較し、開花期の差が小さいことを基準に選抜しました。

‘春日W3’は奈良県桜井市での4月上～中旬定植の露地栽培で、安定して7月下旬に収穫できます（表1）。4月中旬から7月下旬までの平均気温が露地よりも1.3～1.7℃高い無加温ハウスの高温条件でも、収穫日の変動は既存の品種に比べ小さいです。

花色は白色（RHS カラーチャート NN155D）の一重咲きで、満開時の花径35mm程度、舌状花数18枚程度、頭花数22輪程度、頂点咲き花房型の小ギクです（図1）。コンパクトな草姿であり、調整後の切り花重は‘アクア’や‘シユーペガサス’に比べ小さいですが、茎伸長性に優れているため十分な切り花長が確保できます。

3. 実用化に向けた対応

センター内での調査に加え、2022～2024年には平群町および葛城市における栽培試験を実施するとともに、県内の生産者団体やJA、県等



図1 新品種‘春日W3’の外観と頭花の形状

表1 ‘春日W3’の切り花特性

品種	調査年	対照区 収穫日 (月/日)	高温区 収穫日 (月/日)	対照区と 高温区の差 (日)	切り花長 (cm)	切り花 調整重(g)
春日W3	2024	7/27	7/22	-5.2	109	27
	2023	7/31	7/31	-0.3	104	28
	2022	7/29	7/30	1.5	102	-
アクア	2024	7/12	7/27	15.1	89	34
	2023	7/20	7/16	-3.9	82	36
	2022	7/21	7/20	-1.5	83	-
シユー ペガサス	2024	7/24	7/25	0.9	84	34
	2023	7/28	7/30	2.9	75	33
	2022	7/30	7/25	-4.7	75	-
白波	2024	7/19	7/20	0.7	83	24
	2023	7/24	8/2	8.8	79	32
	2022	7/23	8/1	9.1	88	-

定植日：2024年4月11、12日（2024年開花）、2023年4月11、12日（2023年開花）、2022年4月11日（2022年開花）

2024年、2023年は頂花の舌状花が色を示し、かつ開き始める前、2022年は管状花最外列の開花時にそれぞれ収穫しているため、この間を4日と仮定し、2022年の収穫日データは調査日から4日前の値を示す

切り花調整重は切り花長75cm、下葉脱落15cmに調整した重さ

の関係機関を構成員とする「キク品種選定普及会議」において、関係者の意見をいただくことで、より実用性の高い品種を選抜しました。以上の結果を踏まえ、2025年10月に品種登録を出願しました（出願番号：第38238号）。これまでに当センターでは、8月盆出荷用小ギクとして赤色2品種、黄色1品種を育成しており、白色の‘春日W3’を加えた品種群を利用することで、需要期の出荷量が安定し、奈良県産小ギクの競争力が向上することを期待しています。

（栽培・流通科 辻本直樹）